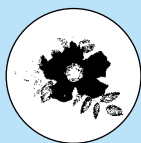
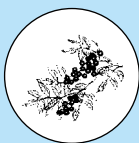


おこっぺ



町の花ハマナス



町のホナナカマド

議会だより

第127号

平成23年11月15日

発行/ ☎098-1692 紋別郡興部町旭町 興部町議会

TEL (0158) 82-2131
FAX (0158) 82-2990

編集/ 議会広報特別委員会



興部小学校学芸会

第3回町議会定例会のあらまし … P2～4

町政ここが聞きたい … P4～5

議員活動報告 … P5～8

編集後記 … P8

平成23年第3回 町議会定例会のあらまし

町長行政報告

「紋別―羽田空港間直行便 における一部期間の千歳 空港経由便化」について

8月18日開催された「オホーツク紋別空港利用・整備促進期成会」において、会長の紋別市長より全日空からの提案を受けての報告があった。その内容は、現在運行している紋別東京便を、本年10月30日から平成24年1月31日まで期間運休止、千歳空港経由の乗継便の形態にするものであった。全日空によるとこの運行は、経由化による路線の維持、千歳空港乗継による利便性の向上と潜在需要の掘り起こしを目指す一環として行なう実証実験とし、終了後は運行を再開することである。期成会としては、航空業界の厳しい現状を認めつつも、直行便の維持を求めていくことを確認した。この乗継便が恒常化、廃止に向かわないよ

う、今後とも取り組みを強化していくこととする。

東日本大震災における風 評被害の払拭活動

福島原発事故によりオホーツク産貝柱についても風評被害による流通停滞が懸念されるため、北海道漁業協同組合連合会が中心となり、北海道・議会、貝柱生産地であります、稚内市から北見市までの関係漁業協同組合とその市町村が訪問団を結成し、8月22日から28日まで、主要な輸出先である香港・台湾の関係機関等へ干貝柱の安心・安全のアピール活動をしてきた。



帆立乾貝柱

農作物・生乳生産の状況

牧草については、収穫量

は平年並みであるが、収穫期の天候不順によるサイレージの品質低下が懸念されている。また、牧草地への雑草の侵入が近年著しくなっており、農業関係機関を中心にした対策の徹底を進めている。

生乳生産については、8月31日現在3万6546トンで、計画対比99%で推移している。

林業関係

下刈り・除間伐などの保育事業は、65%の進捗状況である。

漁業生産の状況

8月31日現在、前年同期比1882トンの減となっている。

主な漁獲量については、毛ガニ漁は対計画比102%の91トンで7月27日で漁を終えている。ホタテ漁は計画比70%の1万1331トン、前年同期比1953トンの減である。マス定置網漁は7月9日に開始さ

議会の動き

平成23年9月8日以降
9月8日 第三回町議会定例会

- // 議会広報特別委員会
- // 決算審査特別委員会
- // 議会全員協議会
- 15日 産業建設常任委員会
- 16日 敬老会



敬老会

- 16日 議会全員協議会
- 22日 JAおうむ・おこっぺ合併予備契約調印式
- 23日 武部勤代議士の国会・政治活動



英語指導助手授業

れ、前年同期比42トン増の183トン、サケ定置網漁は9月5日より開始され、漁獲量及び価格とも今後の好漁が期待される。

建設工事の発注状況

9月1日現在、土木・水道・建築工事ともに100%の発注状況となっており、9月補正についても順次発注予定である。

新任英語指導助手の受入

カナダ・トロント州出身のジェフリー・ムーアさんが、8月3日着任し、性格も明るく積極的で先生・生徒の評判も良い。

一般会計補正予算 (第2号)

今回の補正は、合併浄化槽設置に係る補助金やじん芥車事故に伴う車両及び生ゴミ処理施設の修繕費、農業科学研究センターの血液検査装置リース料、中体連参加補助金などである。

補正額は、2079万円追加し、総額を38億7836万2千円とし、原案どおり可決した。

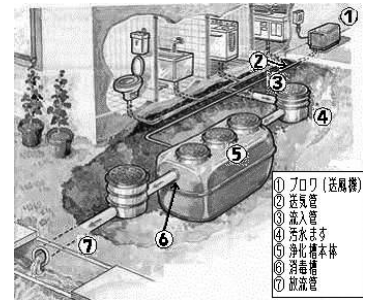
歳出の主なもの

○栄町職員住宅修繕工事請負費 280万円
○栄町職員住宅一棟修繕工事 35万円

○合併処理浄化槽設置事業補助金 152万円
○合併処理浄化槽設置申請2基分 307万円

○廃棄物収集車修繕料
ごみ収集業務中の事故による車両修繕料

○農業科学研究センター血液検査装置借上料



合併処理浄化槽イメージ図

血液検査装置更新借上料 83万円
○未来につなぐ森づくり推進事業費補助金 382万円

○中体連対外競技参加費補助金 35万円
○中体連各種参加経費の増により不足分を補正

特別会計等補正予算

特別会計等2会計で補正予算が提案され、原案どおり可決した。

①平成23年度興部町介護保険事業特別会計補正予算(第1号)

補正額は、383万8千円を追加し、総額2億6663万8千円とした。

○負担金・交付金等の額確定による返還金の補正等

②平成23年度興部町国民健康保険病院事業会計補正予算(第1号)

補正額は、400万円を追加し、資本的支出総額1271万7千円とした。
○病院改築基本構想・基本計画策定業務委託料の補正

監査委員の選任

任期満了に伴い、小柳和雄氏を選任同意

教育委員会委員の任命

任期満了に伴い、本多正司氏を再任同意

人権擁護委員候補者の推薦

前推薦者辞職に伴い、今井秀和氏を推薦同意

を祝う集い

30日 広域紋別病院企業団議会定例会

10月1日 札幌おこっぺ故里会

3〜4日 議員道内行政視察

5日 乳牛感謝祭並びに牛馬祭

15日 日下太朗道議、水産林務常任委員会委員長就任パーティ

18〜19日 決算審査特別委員会

25日 議会広報特別委員会

11月3日 町功労者表彰式

4日 議会広報特別委員会

11月11日 産業建設常任委員会

平成22年度普通会計等財政健全化判断比率及び公営企業会計資金不足比率の報告

この比率は町の財政の状況を示す指標で、平成22年度は、一般会計の早期健全

化基準及び特別会計の経営健全化基準のいずれも基準値以下となっていて、各会計は健全と判断された。

| 平成22年度 普通会計等財政健全化判断比率 | | | |
|-----------------------|---------|----------|----|
| | 平成22年度% | 早期健全化基準% | 備考 |
| 実質赤字比率 | — | 15.00 | |
| 連結実質赤字比率 | — | 20.00 | |
| 実質公債費比率 | 16.7 | 25.0 | |
| 将来負担比率 | 27.4 | 350.0 | |

| 平成22年度 公営企業会計経営健全化判断比率 | | | |
|------------------------|----------------|----------|----|
| 特別会計の名称 | 平成22年度 資金不足比率% | 経営健全化基準% | 備考 |
| 国民健康保険病院事業会計 | — | 20.0 | |
| 簡易水道事業特別会計 | — | | |
| 公共下水道事業特別会計 | — | | |

意見書

住民の安全・安心なくらしを支える交通運輸行政の充

実を求める意見書

提出者 松村 裕治議員
賛成者 小泉 優子議員
賛成者 佐々木忠行議員
賛成者 佐藤 吉春議員

森林・林業・木材産業政策の積極的な展開に関する意見書

提出者 矢野 幸三議員
賛成者 阿部 昭一議員
賛成者 横内 武久議員
賛成者 前田 義雄議員
賛成者 藤渡 昭博議員

平成22年度各会計決算認定は審査特別委員会へ付託

平成22年度興部町各会計歳入歳出決算は、決算審査特別委員会へ付託することとした。本会議終了後、直ちに当委員会を開催、つぎのとおり正副委員長を選出し、10月18日～19日の2日間一般会計、特別会計の審査を行った。

委員長 松村 裕治
副委員長 矢野 幸三

町政ここが

聞きたい!!

Q 興部高校生徒数の減少化対策について

佐藤吉春議員

A 更なる支援を検討したい

山前邦夫教育長

Q 一点目として、少子高齢化により生徒数の減少が余儀なくされ、今年度は15名と少人数で、この状態が複数年継続すれば廃校の可能性もあり、教育行政として高校存続に向けてどのような対応をしているのか。また、今後の対応は。

二点目として、同じ悩みを持つ滝上高校では給食制度を取入れ、高校存続に大

A 給食導入は難しい

裕一寿町長

二点目の質問については、滝上町は、PTAの強い要望で導入したという経緯であるが、当町のPTA、間口対策協議会等は給

食導入が生徒確保に繋がらないという意見が大半であ

きな成果があると聞いています。興部高校存続にも大きな政策になると思うので、取入れて頂きたい。

A 興部高校間口対策協議会、西紋地区教育文化振興会、町議会、住民のご理解ご協力を頂き、通学費、衛星放送受信料の補助等を行ってきた。支援策については、入学支援金、部活動遠征費、通学費の一部補助等を実施している。

高校進学に関する中学校のアンケートには少数であるが給食導入、町外からの通学費補助等があげられている。今後、アンケートの意見を踏まえ出来る限りの支援を考えていきたい。

り、また予算も必要となるため、難しい状況と考えている。

Q 政策と言うのは即効果が出るものではない。お金はかかるが、政策

が功を奏した時の成果と、

高校が無くなった場合を考慮して頂きたい。

A 間口対策は必要であるが、親御さんらの給食要望の声は大きくなっている。

掘り下げた対策を検討し進めていきたい。



興部高校

関前の簡易舗装をして頂きたい。

A 行財政改革の問題もあり、他町村に比べインフラ整備が遅れていたところがある。住環境の整備事業として検討する。

Q 住宅の新築・増改築の支援について

A 住宅・定住促進も含め検討する

Q 新築・増改築・中古住宅購入支援制度

は、当町以外の市町村で導入し成果を得ている。当町もこの制度を導入することで、定住促進、地元建設業者への仕事興しにも繋がる

と確信するが、見解をお尋ねしたい。

A 住民の皆さんは自分の家を持つことが夢だが、経済情勢が厳しいため、建設の機運が盛り上がり

られない現状と理解している。支援制度が無いのは管内4町である。個人への支援であり大義名分が必要で、条例も作る

なければならぬので、公営住宅整備とともに検討させて頂きたい。

Q 公営住宅をリフォーム活用することは大事であるが、地方から来る人が魅力を感じて住みたい

と思ってももらえない町づくりを考えていかななくてはならない。そのために助成制度を作って頂きたい。

A 住民が安心して暮らせる町づくりは我々の仕事であり、長期間の中で住宅・定住促進の問題も含め、助成制度については

検討したい。



公営住宅

議員活動報告

道内行政視察報告

1 「健康づくり宣言のまち」

が実施する健康増進計画

総務社会常任委員会

2 足寄町クリーンエネルギー

1の利用

産業建設常任委員会

「健康づくり宣言のまち」が実施する健康増進計画 (清水町)

清水町は、北海道東南部十勝地域西部にあり、日勝峠の東側に位置し、人口は約1万人であり、平成3年「健康づくり宣言のまち」を決議した町である。

昭和63年国民健康保険事業に関し、高医療町として厚生省(当時)より指定を受け、国保安定化計画を作る

こととなる。町民の健康づくりのため、地域、議会、行政が一体となった健康意識の向上、啓蒙啓発活動が必要不可欠となる。

平成元年、20の町内各事業団体の代表者で構成する健康づくり協議会が設立される。その協議会が中心となり様々な活動がされ、平成3年「健康づくり宣言のまち」を議会で決議することとなる。

その後、自らの健康は自らを守る意識の定着を図るため、健康づくり行事、先進地への視察など町の補助を受け事業を計画実行してきた。その事業の内容は、

- ①生活習慣病予防と生活習慣の改善(各種検診、保健指導、歯科指導)
- ②栄養、食生活の改善(生活習慣の改善、栄養相談・指導の充実、食生活改善推進協議会の育成)
- ③積極参加型の健康づくり(ひとりスポーツの振興、指導者の育成、高齢者スポーツの振興、誰もが参加できるスポーツの振興)
- ④社会参加、生きがいづく

り（一人ひとりが生きがいを持つ。互いに学びあう学習活動。芸術文化・スポーツ・レクリエーション活動）
⑤休養、こころの健康づくり（疲労、ストレスとの上手な付き合い方、温泉入浴、森の自然散策、登山、快眠）
⑥施設空間の活動整備（町内施設、自然の有効利用）

平成14年において、これらの活動を中心となり進めてきた協議会について、一定の成果を上げたことにより見直しされることとなった。この間において、町民の健康意識の啓発普及に貢献できたことにより、平成3年高医療町と指定された医療費の削減が図られたこと、協議会の構成団体は個々においても活動していることなどから、この協議会は発展的な解散となった。

興部町においても住民の健康増進、生きがい対策、医療費の削減は、福祉における重要な目的であり、実行には様々な課題が存在する。清水町は厚生省（当

時）の指定を受け、地域の住民全体が健康を意識する必要性を感じ、議会・行政が共に事業に取り組み現在に至っている。

清水町では、福祉行政を所管する福祉保健課での健康増進活動、教育行政を所管する教育委員会でのスポーツ大会、文化活動などの全てが、この「健康づくり宣言」の中に盛り込まれており、住民の協力により事業活動が広く展開されている。高齢化社会が進む町において、閉校施設を活用して地域の住民有志がNPO法人を立ち上げ、小規模多機能型居宅介護事業所を開設した事例も紹介され、今後も同様の活用計画があるとのことであった。

興部町においても、住民が何らかの活動に積極的に参加でき、引きこもりなどにより社会と隔絶されることと無い高齢化社会に対応した地域づくりに向けた努力を、地域、行政・議会が一体となり進めていかなければなりません。

清水町役場にて



清水町役場にて

足寄町におけるクリーンエネルギーの利用について (足寄町)

10月4日、足寄町議会榊原文教厚生常任委員長・阿久津町長の歓迎のご挨拶を頂き視察事項の説明を受けた。

足寄町は、行政面積は1408キロ平方メートルで香川県の75%・興部町の3・9倍の面積がある日本一広い町で、7700人余りの人が暮らしている。足寄町は農林業の町で、行政面積の83%1164キロ平方メートルの広大な森林を背

景として林業が盛んである。

農業は酪農・肉用牛・畑作経営である。地域資源が豊富で町全域がバイオマスによって埋め尽くされている。

今まで廃棄物として扱っていた家畜糞尿や、未利用のまま放置していた林地残材を資材やエネルギーとして活用し循環型社会を形成し世界に誇れるバイオマスタウン足寄を創造している。

1、木質バイオマス高度利用について

森林資源から、間伐・伐採の際に山土場に残された未利用の木材をエネルギーとして有効活用するため、とかちペレット協同組合（異業種14社による）を設立し廃校校舎（特区申請・認可により閉校による補助金返還は免除）を利用し、木質ペレット工場に改造し年間750トンを生産している。

平成17年にカラ松集成材を使用した木造の役場庁舎を建設、暖房は、消防庁舎と共用でペレットボイラー2基とバックアップとして重油

ボイラー1基設置している。

ペレットの使用金額は月126万円で灯油と比較すると割安とのことである。

民間施設・個人住宅では、70台のペレットストーブが導入されているが、道などの補助事業による導入により、町では20万円を上限に助成している。

木質ペレットには、専用ストーブ・ボイラー燃焼器が必要だが灯油ストーブより割高でありペレットの利用拡大を進めるため機器の開発と設備メンテナンスの人材育成に力を入れ、地域産業の振興に取り組んでいる。

2、家畜糞尿バイオマスについて

平成21年度、農家戸数は319戸・農業粗生産額88億8千万円（内訳は、乳用牛44%・肉用牛33%・畑作23%）である。家畜糞尿のバイオマス賦存量は年間58万トンに及んでいる。

家畜排せつ物法の施行に伴い屋根付き堆肥盤が設置され雨水による流失は阻止

されたが、未熟な堆肥も多く悪臭や飼料作物等の品質にも影響があるという。当
面は、既存の施設で完熟した堆肥の製造に取り組むとして
いる。
バイオガスプラントが、十勝管内では先駆けて2軒に導入されている。発酵処理された消化液は良質な肥料として活用され、畜産環境対策として有効である。
現在は、発電を中止しているが経済性が改善されれば整備し、今後更なる導入も考えている。
平成19年には、北海道開発局の行うバイオマス多角的利用に関する地産地消構築調査地域の指定を受け、発生したバイオガスの精製ガスは発電やLPGの代替を果たすことが実証されている。
興部町のバイオマスタウン構想も公表され本年度はバイオガス利活用の具体的な調査研究が進められている。
地域のバイオマスを効率的に利活用し循環型社会の町づくりを進めていかなければなりません。

(記：矢野産業建設委員長)



芽登ペレット製造工場

所管事務調査

町内公共施設総務社会・産業建設常任委員会現地調査

①興部下水終末処理場

平成元年施設供用開始

②興部火葬場・霊園の状況

火葬場については、昭和57年新設し平成22年まで年平均約45回の使用実績がある。平成23年以降2号炉用火炉台車耐火物交換等の修繕工事が予定されている。

興部霊園については、残りの区画が少なくなっており、増設等を検討する必要

がある。

③興部一般廃棄物処理場
現在まで埋立てゴミの減量化を進めてきた。(容器包装ゴミ等の分別、生ゴミの処理分別等)

平成24年度からは、紋別市への搬送となるが更なる減量化に向け、住民の理解を得ながら、方策を検討していく必要がある。

④興部中学校校舎の状況
平成21年度において実施した耐力度調査において、校舎・渡り廊下等が構造上危険な状態にある建物と判定され、体育館以外は建替が必要である。

⑤沙留中学校校舎の状況
興部中学校と同じく、平成21年度において実施した耐力度調査において、校舎・廊下等が構造上危険な状態にある建物と判定され、建替が必要である。

⑥秋里TMRセンター
秋里地区20戸の内、7戸の農家が、将来的な経営形態を考慮して設立。建設した施設を最大限に生かし、個体の乳量の向上や繁殖成績の改善を図ることを目的としている。



興部下水終末処理場



秋里TMRセンター

⑦豊野浄水場・取水施設
施設機械の老朽化により更新時期が迫っている。

⑧沙留漁港の整備事業
沙留漁港は興部町の漁船の8割以上が利用している漁港で平成4年を最後に整備がされていない。近年、漁船の大型化による係留施設(岸壁)不足で防波堤に係留し、ホタテ養殖作業等に支障をきたしている。更に、冬期間結氷から船を守るための上架作業用のリフト式漁船上架施設等について、昭和56年建設のため老朽化が激しく維持管理費が嵩んできており、早期の更新が必要になっている。

以上、町内の主要公共施設について現地調査を行った。老朽化が進み更新(新設)を必要としている施設が多く、またその施設は、ほとんどが住民の生活・教育等に直結している。財政的な検証も行いながら、早急な対応を進めていかなければならない。

(記：松村総務社会委員長)

産業建設常任委員会

委員長 矢野 幸三
 9月15日、11月11日委員会を開催し、次の事項について町理事者及び関係所管課からの説明を受け、質疑を行った。

9月15日

①酪農畜産経営地域再編計画に係る集落営農組織建設事業について

11月11日

①公共事業予算に関する要望の取扱いについて

議会運営委員会

委員長 小泉 優子

9月6日委員会を開催し、次の事項について審議した。

○第3回定例会の運営について

議会全員協議会

議長 山川 孝義

8月30日、9月8日、9月16日協議会を開催し、次

の事項について理事者及び関係所管課からの説明を受け、質疑を行った。

8月30日

①今後の国保病院改築調査の進め方について

9月8日

①興部高等学校間口確保対策について

②風力発電所の今後の方向について

③興部農業協同組合合併に係る支援について

9月16日

①興部農業協同組合合併に係る支援について

決算審査特別委員会

委員長 松村 裕治

決算審査特別委員会に付託された、平成22年度興部町各会計

歳入歳出

決算について、10月18・19

日審査を行い認定

すること



決算審査特別委員会

に決しました。

議会広報研修会

去る8月18日、札幌市において、全道の町村議会のおいて、全道の町村議会の広報担当議員等を対象とした研修会が開催され、全道107町村より495名が参加し、興部町議会からも5名が参加してきました。

講師に広報コンサルタンの深沢徹氏を招き、議会広報誌の作り方について研修を行いました。

研修会では、ありのままに、分かりやすく、住民とともにある議会広報の編修ポイントなどについて講演をいただき、実際に発行している三町の広報誌を例に挙げ、編修・構成方法等について詳細な説明があり、伝える事の大変さを知り、同時に伝えることの



広報研修会

編集後記

意義もより一層実感しました。私達議会広報委員も、ありのままに、分かりやすく、住民とともにを肝に銘じて、より読みやすい議会広報を心がけていきます。
 (記・藤渡広報副委員長)

昨今の世界情勢は、経済の低迷、雇用不安、貧困、ギリシャ経済の破綻等により混迷を極めており、日本においては、政権が変わっても首相が約一年ごとに交代となり、信頼された政治・経済の安定とは程遠い状況が続く中、2011年も残すところあと2ヶ月

あまりとなりました。3月11日、東北地方は大地震に襲われ、巨大津波、福島での原発事故による放射能汚染、風評被害など、何の解決策も見出せない中、9月には台風12号、15号が日本列島を横断し、更なる大きな被害をもたらすこととな

りました。

北海道においては太平洋側では、被害を受けていますが、興部町では幸いにも特に大きな被害はありませんでした。ただ、諸外国からみると日本は小さな島国であり、放射能汚染による風評被害は北海道、興部町の特産品にも及んでいます。様々な形で自然の驚異を見せつけられた年でもありました。

いずれにしても、被災された地方の復興と原発事故の早期収束を願い、安全・安心な国づくりに向け、微力ながら、その一翼を担っていきたいと思います。
 (記・小泉広報委員)

〔議会広報編集スタッフ〕

委員長 佐々木忠行

副委員長 藤渡 昭博

委員 小泉 優子

委員 矢野 幸三

議会事務局長

畑山 研二

庶務議事係長

内ヶ島真奈美